

第7章 まとめ・本市の目指す姿について

1 本市の目指す姿

ここまでの構想の内容を図示すると、下図のとおりになります。

この構想を推進していくことにより、

- ① 陸・海・空の結節点周辺エリアを中心に、物流関連施設の集積を図る
- ② 各種輸送モードを組み合わせ、多種多様な物流ニーズと時代の変化に対応できる街を目指します。



■本市の目指す姿のイメージ図



2 構想の推進により生じる効果

構想に基づき施策やリーディングプロジェクトを推進することにより、本市物流の活性化をはじめとして、物流関連施設等への民間投資を呼び込み、雇用の創出を目指します。構想を推進するにあたり、以下のように目標値を定めます。

●構想の推進による効果の目標値		
物流関連施設等への民間投資額	[2022～2026年の5年間] 延べ 390 億円	[2022～2031年の10年間] 延べ 1,000 億円
物流関連施設等の立地件数	[2022～2026年の5年間] 延べ 25 件	[2022～2031年の10年間] 延べ 60 件
雇用の新規創出	[2022～2026年の5年間] 延べ 550 人	[2022～2031年の10年間] 延べ 1,600 人

※[2022～2031年の10年間]は参考値

構想に盛り込んだ施策とリーディングプロジェクトを推進する当面5年程度の期間について、上記の表のとおり目標値を定めました。また、物流に関する施策の内容が多岐にわたり、その効果が具体的に現れるまでに要する期間も長短があると考えられることから、より長期の10年間についても目標値を設定することとしました。

第1章でも述べたように、物流を取り巻く環境は激変の最中にあることから、その変化の動向や目標への到達状況等も踏まえて、今後も目標値は適時見直しを行っていく予定です。

今回策定する構想を全市的に推し進めることにより、上記目標の達成に向けて積極的に取り組んでいきます。